

非核・平和宣言都市

核兵器の廃絶と平和を願う全ての
人々とともに行動することを決意し、
平成18年5月25日、『非核・平和
都市』宣言を行い、『日本非核宣言自
治体協議会』に加入しました。

平和首長会議への加盟

平成22年1月1日に『核兵器廃絶
に向けての都市連帯推進計画』に賛同
する世界各国の都市で構成されている
平和首長会議に加盟しています。

ヒロシマ・ナガサキ被爆ポスター展

毎年開催しており、今年も8月7日
～31日まで、市役所1階ロビー・香
北支所・物部支所で『ヒロシマ・ナガ
サキ被爆の実相等に関するポスター
展』を開催します。

黙とうをささげましょう

広島原爆忌

8月6日午前8時15分

長崎原爆忌

8月9日午前11時2分

終戦記念日

8月15日正午

香美市戦没者追悼式

香美市では、毎年、戦没者の追悼式
を行っています。(令和5年度は10
月上旬に開催予定)

参列した方は、戦争の悲惨さと平和
の尊さを未来へと語り継ぎ、心豊かな
社会を築いていくことを改めて誓い、
戦争で尊い命を落とされた方々のご冥
福をお祈りしています。



昨年9月30日に行われた香美市戦没者追悼式で、当時、大栃中学校3年生だった
山中 香澄さんが、平和への思いをつづった作文を朗読しました。

戦争をして何が得られる

(大栃中学校3年 山中 香澄)

私は時々、戦争のことにつ
いて考えることがあります。
そして、国のために戦って
くれた人々に感謝しています。
しかし、感謝の気持ちがあ
る一方で、戦争という争いが
行われたのは、とても悲惨な
ことだと思えます。戦争は何
のために行ったのか、疑問に
思う人もいるかもしれませ
ん。国のために命を落とした多
くの人の思いを、次につなげ
ていくべきではないでしょ
うか。

夏休みに入る前、学校で沖
縄戦に関するDVDを視聴し
ました。沖縄戦では、私たち
と同じ年代の少年たちが、戦
場で戦っている映像でした。
特に印象に残ったことは、あ
る少年が、爆弾を背負って相
手軍の戦車に飛び移り、亡く
なってしまうことです。相
手に勝つことしか考えられず、
少年は自分の命を犠牲にする
ことに、抵抗することもでき
なかつたのだと思います。
また、少年たちが山の上に
連れて行かれて射殺されたり、
アメリカの技術のすごさから、
日本は負けると諦めている人
も数多くいたそうです。中に
は、お酒を飲むことで「死に

やすい」と言って、死ぬこと
を何とも思わなくなつてしま
った人や、「外人に殺される
より隊長に殺されるほうがい
い」と死を覚悟している人も
いました。
今では考えられない話です
が、戦時中は常に生と死が隣
り合わせの状態だったという
ことを知りました。生きるの
が辛いから、死んだほうが
ましという人がいたことに心
が痛みました。
そして、DVDに出てきた
ある語り部さんの言葉が心に
残っています。
それは「戦争はやらないほ
うがいい。どこかは負けるか
ら」という言葉です。この言
葉には、今の人たちが、これか
ら先を生きていく人々、皆さ
んへ向けてのメッセージだと
感じました。戦争で勝つてい
たとしても、どこかの国は負
けているという事実が存在し
ます。戦って残るものは戦争
をしたという事実だけであり、
得るものは何もありません。
この戦争が無ければ、何千人
という命が失われることはな
く、平和に生き抜くことがで
きたかもしれません。

戦争とは、ほんの小さな出
来事が複雑に絡み合い、世界
規模へと発展したものである
と思います。そして、世界が
平和になれば、人として生き
る権利も守られる社会になる
のだと考えました。
被爆国として、そして沖縄
の地上戦を歴史に持つ一人と
して、より平和について考え
ることが大事ではないでしょ
うか。一人一人が人の生きる
権利について考えることで、
誰もが自分本来の素直な思い
を持って生きることができ
るはずです。
私の曾祖父は戦争中、兵隊
として任務に当たっていたそ
うです。国を守るために戦い
に行く曾祖父を、曾祖母はど
のような思いで見送ったので
しょうか。行つてほしくない
生きて帰ってきてほしいと心
の中では切に願っていたと思
います。戦争と人権について
考える中で、今ある幸せが当
然ではないことや平和に過ご
せることのありがたさを感じ
るようになりました。
「家族がいるから、今の自
分がいる。友だちがいるから、
明るく楽しく毎日過ごすこと
ができています……」もしどち
らかの関係が崩れてしまうと、

『戦争中の暮らし』について
投稿をお待ちしています

広報委員会では、戦争中の暮らしにまつわる体験談や
エピソードなどをお持ちの皆さんから、当時のことにつ
いての投稿をお待ちしています。

募集するのは、戦場で話ではなく、当時の生活の中
で感じた“戦争”です。

「避難訓練や防火訓練」「出征する兵隊さんの見送
り」「物資が不足する中での日々の生活」「学校生活」
「子どもたちの遊び」「戦地からの手紙」「物資の供
出」「言論統制」「海外からの引き揚げ」など、暮らし
の中の体験談をお寄せください。

また、苦しい生活の中での「ささやかな楽しみ」「心
温まるできごと」などのエピソードについてもお寄せく
ださい。『戦争中の暮らし』に関する写真提供も大歓迎
です。

ご親族から聞き取られた体験談でも構いませんので、
ぜひ投稿してください。

当時の“暮らし”を知ることが、戦争を語り継ぐ糸口
になるのではないのでしょうか。戦争体験者が少なくなる
中、少しでも多くの体験が若い世代に引き継がれますよ
う、ご協力をお願いします。

- ◆投稿はできるだけ、300文字以内でお願いします。
- ◆投稿原稿に次のことを書き添えてください。
 1. 住所
 2. 氏名(もしくはペンネーム)
 3. 年齢
 4. 電話番号
 5. メールアドレス(あれば)

◆締め切り：なし(随時募集)

◆問い合わせ・連絡先：香美市広報委員会事務局

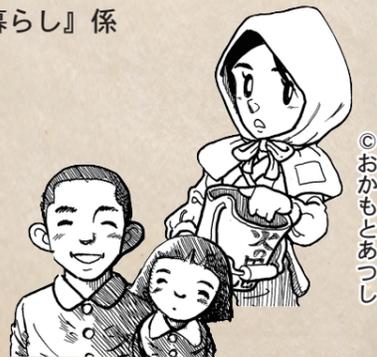
電話 53-3112

メール kamikami@city.kami.lg.jp

住所 〒782-8501 (住所記載不要)

香美市広報委員会事務局
『戦争中の暮らし』係

※投稿いただいた内容は、広報
香美に掲載させていただく場合
があります。また、投稿内容に
ついては、趣旨を変えず一部表
現を修正して掲載させていただ
く場合があります。
また、詳しいお話をお聞かせ
いただきたい場合は、連絡させ
ていただくことがありますので、
ご了承ください。



©おかもとあつし

